

## 2012年問題を振り返って

今年は年頭にあって様々な「2012年問題」があるお話をしました。お約束どおり、その結果がどうなったのか検証しながら、今年はどうな年だったのか振り返りたいと思います。

### 各国の首脳交代

中国、日本、韓国と政権交代が続いた今年、ロシアのプーチン大統領、フランスのオランド大統領、アメリカのオバマ大統領の再選、中国の習近平氏へのトップ交代と続き、終わりに韓国の大統領選挙とまさに世界中で首脳交代の年でした。他にも予想しなかったエジプトや最後には日本の衆議院選挙までありました。政権が交代する年は、政治は国内向きの保守色が強くなりがちで、特に日本の周辺は、尖閣、竹島の領土問題と、昨年世代交代した北朝鮮からロケット打ち上げと、外交関係も不安定となりました。

### 団塊の世代の引退

「団塊世代」の本格的な大量「引退」は、年金受給者の大幅増に伴い、日本の財政支出も急増させています。年金受給者であるシニア層は収入が減ったことで節約を心がけ、消費を抑えるようになり、日本社会の内需が縮小してゆることが懸念されます。

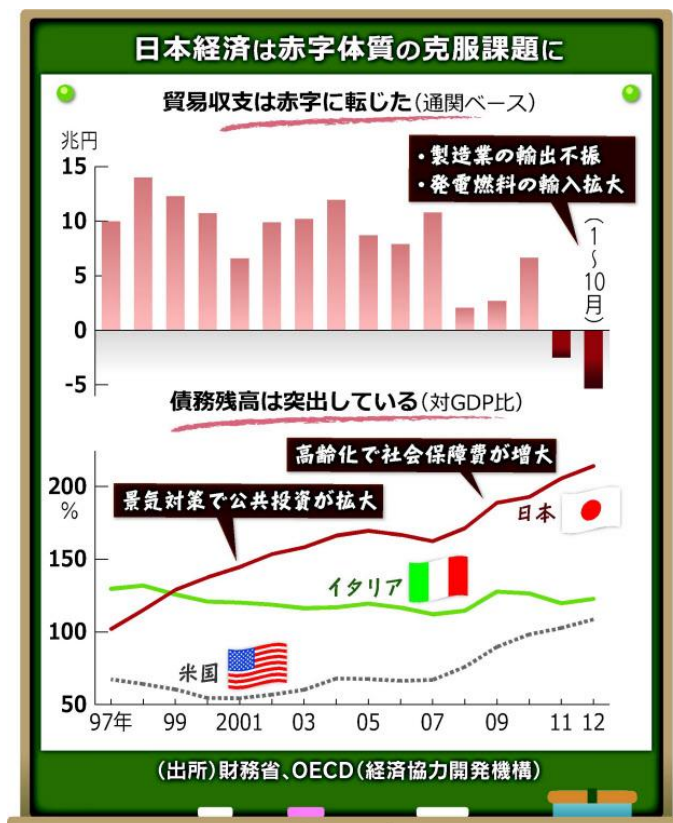
しかし今年、より鮮明に日本経済の構造の変容したことがあります。それは、貿易赤字が拡大し財政赤字との「双子の赤字」が常態化したことです。

日本は自動車や電機などの輸出で稼ぎ、貿易黒字を維持してきました。ところが2011年3月の東日本大震災を機に、貿易赤字を記録する月が多くなっています。世界経済の減速や円高の長期化に加え、企業の海外進出という構造要因もあって、輸出が停滞しているのです。原子力発電所の再稼働が難しく、火力発電所向けの液化天然ガス(LNG)などの輸入が増えていることも追い打ちをかけています。そんな中、今年はずいぶん単月で貿易赤字が1兆円を突破しました。13年度は日本貿易会見通して、貿易赤字は6兆7900億円になるだろうとされています。

一方海外からの配当や利子を含む所得収支は大幅な黒字です。これで貿易赤字を補えるので、海外との総合的な取引状況を示す経常収支は黒字を保っています。ただ震災後は経常黒字も縮小傾向にあります。輸出の停滞と輸入の拡大で貿易赤字が定着するだけでなく、数年内に経常赤字に転じるとの見方も出ています。貯蓄を取り崩して消費に回す高齢者の増加も、経常赤字の要因となります。

円安材料目白押しで、為替市場の潮目が変わった年でもあります。円安は輸出振興効果がありますが、輸入額増ともなります。このまま財政も貿易も赤字が増え続ければ、いよいよ日本国債の消化に支障を来すかもしれません。来年は自民党政権の「アベノミクス」経済政策の行方がどうなるか、注視しましょう。

最後に古代マヤ暦にもとづく「世界終末説」です。12月22日で世界が終わると世界各地で騒動が起き、アメリカではサバイバル用品や地下シェルターの売れ行きが伸びたそうです。結果は、人類は滅亡せずに新たな歴に入った、ということのようです。



日本経済新聞のコラムより